

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-4-5
環境保全の推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

廃棄物対策課長 長田 茂男

電話番号

0852-22-6173

事務事業の名称	事業者の3R推進事業	
目的	(1) 対象	事業者
	(2) 意図	廃棄物の排出量の削減、再生利用量増加に取り組んでもらう。
事業概要	県内における産業廃棄物の発生抑制や資源の循環利用を促進するため、産業廃棄物の発生の抑制、減量化、リサイクルに係る施設及び設備を整備する事業者に対して、整備に要する事業費の1/3を補助する。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	事業者に対する補助件数の割合	目標値		100.0	100.0	100.0	100.0	%
	式・定義	補助実績件数/補助予定件数	取組目標値						
			実績値	66.7	33.4	66.7			
			達成率	-	33.4	66.7	-	-	%
2	指標名		目標値						%
	式・定義		取組目標値						
			実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	19,092	70,000
うち一般財源 (千円)	0	0

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

- 平成29年度の補助実績件数は2件にとどまり、補助予定件数3件には届かなかった。
- 県内の産業廃棄物の再生利用率は平成28年度実績値が56.7%、平成32年度目標値57%に届いていない。(「平成29年度しまね循環型社会の現状報告」より)
- 県としては引き続き、ごみの排出抑制、減量化、再生利用率の向上を推進していく必要がある。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

- 本補助事業により、県内事業者が実施する産業廃棄物の3Rに対する取り組みを支援してきたことにより、県内産業廃棄物の発生抑制、減量化に貢献してきた。
- 平成29年度は、老朽化したがれき類破砕施設について、環境性能に優れた機器への更新に対し助成を行ったほか、汚泥乾燥機を新たに導入することにより、汚泥の排出量を大幅に削減する取り組みに対し支援を行った。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

- 採択件数が補助予定件数3件に達していない。

	H25	H26	H27	H28	H29
申請件数	2	0	2	1	3
採択件数	2	0	2	1	2

- 現状としては、中間処理事業者は県内に地域バランスよく配置されているが、施設更新にコストがかかること等から事業継続できない可能性も生じている。

②困っている状況が発生している「原因」

- 平成25年度以降、補助対象として、最終処分量が多く再生利用率が低いもの(→ばいじん、がれき類、ガラスくず類、汚泥、廃プラスチック類)のほか、特に最終処分量が多いもの(→がれき類)としていたが、近年は申請件数が少なくなっている。
- 県内の事業者からは木くず破砕施設の助成対象拡大が求められており、木くずの高い再生利用率を維持・向上させ、中間処理事業者の事業継続を図っていく必要がある。

③原因を解消するための「課題」

- 県内事業者のニーズを把握した結果、全体の4割以上となる事業者において木くず破砕処理施設の更新を予定しており、潜在的な需要は多いと考えられる。
- 引き続き、当該補助制度の効果的な周知を行い、活用促進に取り組んでいく必要がある。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- 補助事業の活用を促すため、平成30年度から木くずの破砕施設を助成対象に加えることにより、さらなるごみの排出抑制、減量化、再生利用率の向上に取り組んでいく。
- 産業廃棄物業界及び事業者の実情をよく知る(一社)島根県産業廃棄物協会を通じて、事業者への効果的な周知を依頼し、補助制度の活用を呼びかける。